

トヨタ アクア 環境仕様

車両仕様	車両型式		6AA-NHP10		
	車両重量		kg		
環境情報	燃料消費率	 燃料消費率*1(国土交通省審査値)	km/L	27.2	29.8
			CO ₂ 排出量	g/km	85
	排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)		平成30年基準排出ガス75%低減レベル*2	
		認定レベル値または適合規制値	CO/NMHC/Nox	g/km	1.15 / 0.025 / 0.013
	車外騒音(加速/定常/近接)		dB	74 / 70 / 80	
	冷媒の種類(GWP値*3)/使用量		g	HFC-134a(1,430*4) / 420	
	環境負荷物質削減		鉛/水銀	自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下*5) / 自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止*6)	
			カドミウム/六価クロム	自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止) / 自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)	
	車室内VOC*7		自工会自主目標達成(厚生労働省室内濃度指針値*8以下)		
	リサイクル関係	リサイクルし易い材料を使用した部品	TSOP*9 TPO*10	バンパー、リヤコンソールボックス、インストルメントパネル フロントスポイラー、カーテンシールドエアバッグ	
樹脂、ゴム部品への材料表示			あり		
リサイクル材の使用		再生綿フェルト 再生チップウレタン	フロアカーペット、ドアトリム、デッキサイドトリム フロアサイレンサー		

全車「2020年度燃費基準*11」をクリアしています。

*1.燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。 *2.WLTCモード走行。 *3.GWP:Global Warming Potential(地球温暖化係数) *4.フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められております。 *5.1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く) *6.交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージランプ、蛍光灯)を除く。 *7.VOC: Volatile Organic Compounds *8.厚生労働省が2002年1月に定めた指定物質で自動車に関する物質の指針値。 *9.TSOP:Toyota Super Olefin Polymer *10.TPO: Thermo Plastic Olefin *11.省エネ法に基づき定められている燃費目標基準。

自動車リサイクル法の施行により、下表のリサイクル料金が別途必要となります。							
■リサイクル料金表(単位:円) ※リサイクル料金は20年8月時点の金額。							
	リサイクル預託金					資金管理料金	合計
全車	シュレッターダスト料金	エアバッグ類料金	フロン類料金	情報管理料金			
	5,420	1,930	1,650	130		290	9,420
●リサイクル預託金が預託済のお車を商品車として譲渡する旧所有者(譲渡人)は、車両価値部分とリサイクル預託金相当額の合額を新所有者(譲受人)からお受け取りになることにより、リサイクル預託金の返金を受けることができます。							

» ECOLOGY

トヨタは「トータルクリーン」をめざしています。

「トータルクリーン」を基本理念に、環境に配慮したクルマづくりを進めています。生産から廃棄にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携させ、クリーンなクルマづくりをめざします。さまざまな環境目標を、バランスを取りながら達成し、総合的に環境性能の向上を図ります。

*1.Eco-VAS[エコバス]:Eco-Vehicle Assessment System。車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃棄にいたるLCA[ライフサイクルアセスメント]の考え方を踏まえた環境目標値を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システムです。

01. 地球温暖化を防ぐために。

〈燃費改善〉

温室効果ガスであるCO₂排出量の低減をめざして、ハイブリッドシステムのさらなる高効率化に取り組むなど、徹底した燃費の向上を図りました。

〈省冷媒化〉

エアコンの冷媒には、オゾン層を破壊しない代替フロンHFC-134aを採用しています。

〈ハイレベルな環境性能〉

アクアは、全車で「2020年度燃費基準*2 + 20%達成車」の認定を国土交通省より取得しています。

*2.省エネ法に基づき定められている燃費目標基準。



02. 都市環境のクリーン化のために。

〈排出ガスのクリーン化〉

排出ガスのクリーン化を進め、「平成30年基準排出ガス75%低減レベル」の認定を国土交通省より取得しています。



全ライフサイクルでCO₂排出量を低減。

〈LCA(ライフサイクルアセスメント)*3の実施〉

アクアは走行段階だけでなく、生産から廃棄までのライフサイクルで排出するCO₂を同クラスガソリン車に比べて19%低減*4。また、その他の大気汚染物質の総量も同クラスガソリン車に比べて低減しています。

*3. LCA: Life Cycle Assessment。資源採取～廃棄・リサイクルまでの各段階で、クルマが環境に与える要因を定量化し、総合評価する手法で、ISO14040シリーズで国際標準化されています。

*4.トヨタの取り組み範囲において、LCAで評価したもの。



トヨタが乗用車を対象に実施しているLCAの手法は、ドイツの第三者認証機関テュフラインランドによるISO14040/14044規格に基づく審査・認証を受けました。



03. リサイクルと環境負荷物質削減のために。

〈リサイクル性に優れた材料の採用〉

樹脂部品では、リサイクル性に優れた素材TSOPを採用しています。

〈解体性の向上〉

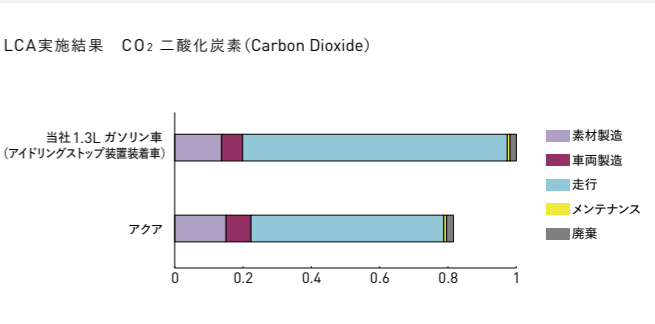
リサイクル性をさらに向上させるために、インストルメントパネルなどに取り外しの基点となるポイントを表示した「解体性向上マーク」を採用しています。

〈環境負荷物質の削減〉

鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを削減し、業界目標を達成しています。

〈VOCの低減〉

内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンなどの揮発性有機化合物(VOC)の発生量を抑制。車室内の臭いや刺激臭を軽減するとともに、厚生労働省が定めている「室内濃度指針値」を下回るレベルとし、業界自主目標



■自動車の生涯走行距離10万km(10年)を走行した場合の結果です。
■トヨタではLCAにより相対的な環境メリットを確認することを目的としているため、実施結果は指数で示しています。